

企画講座

ひと玉マフラーを編む

講師 津田 壽美 日本編物文化協会特別会員・日本手芸普及協会師範

イタリア製の編みやすい並太の段染めローピングヤーン糸を使い、ひと玉で編み上げるマフラーです。短めのマフラーですが、片方が通せるようになっているので、大きなボシのように可愛く巻けます。また、イタリア製らしくカラフルな色合いもありますので、暗めの色使いが多くなるこの季節に差し色の小物としても使っていただけます。冬には必須のアイテム。手作りのマフラーで明るく元気に暖かく冬を乗り越えましょう。初心者でも大丈夫。先生がわかりやすく丁寧に教えてくださいます。(7号の棒針を4本お持ちください) ※材料準備の都合により、12/1に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日時 12月7日(月) 13:30~15:30 参加費 会員 2,000円 ビジター 2,500円(材料費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名

戦国貴族の生き残り戦略⑨

講師 岡野 友彦 皇學館大学文学部長

國學院大學図書館所蔵「久我家文書」に含まれる戦国時代の古文書を読み解くことで、戦国時代を生き抜いた公家貴族たちの苦悩と「したたかさ」についてお話してきました。遂に最終回となる第9回は、天正3年(1575)の「織田信長朱印状」などを読みながら、近世へと移行しつつある公家社会の様子を見ていきます。なお参考文献として、岡野先生著「戦国貴族の生き残り戦略」がご購入いただけます。講座当日にも販売させていただきます。中世の古文書を読めるようになりたいと思っている方、大歓迎!! ※岡野先生著「戦国貴族の生き残り戦略」は1,700円(税別)(吉川弘文館、2015年)

日時 12月14日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

冬を楽しむ寄せ植え

講師 山路 元彦 ヤマジ園芸代表取締役・グリーンアドバイザー

今年は「ハンギングバスケット」の寄せ植えに挑戦です。ハンギングバスケットは植物を植えて吊り下げたり、掛けたりできる花鉢のことで、ガーデンスペースが限られている場合などは空間を有効利用して楽しむことができます。ハンギングバスケットの魅力は花を目の高さに飾るので、立ったままで草花を身近に愛でることができ、花から摘みや枯れ葉の整理などのメンテナンスも楽にできます。また、草花たちにとっても風通しがよく蒸れにくい環境になるので、病害虫も発生しにくくなります。一鉢飾るだけで、ゴージャスな雰囲気演出してくれるハンギングバスケット。木枯らし吹く季節、草花のパワーをもらって元気に過ごしましょう。(園芸用手袋、エプロン、タオルなどをお持ちください) ※材料準備の都合により、12/5に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。また、使用する花材は仕入れの状況により変更される場合があります。

日時 12月16日(水) 13:30~15:00 参加費 会員 3,600円 ビジター 4,100円(材料費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名

伊勢西国三十三所~もう一つのお伊勢参り~②

講師 千種 清美 文筆家・皇學館大学非常勤講師

伊勢参りは江戸時代の庶民にとって一生をかけての願望でしたが、実は信心を口実に日本中を旅することが目的だったので。お参りを終えると西の人たちは江戸までも足をのばし、東からの旅人は京、大阪、四国、宮島など1ヶ月以上もかけて回りました。一番の人気は西国三十三所巡礼、近畿地方と岐阜の三十三の観音霊場を巡って極楽往生を願いました。そこまで金銭的、日程的に余裕がない人々にとって人気があったのが伊勢西国三十三所です。明治時代以前の日本は神仏習合、神も仏も同じように崇敬の対象だったので。2回目の今回は、伊勢市内から、かつて神宮領で、御厨などがあった「神三郡」である多気町へ。そこでも、伊勢神宮との関わりのある信仰や物を見つけました。

日時 12月18日(金) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

お正月の花を生けましょう

講師 竹澤 幸甫 嵯峨御流正教授

最近はお正月といっても、そう特別なことは考えられていなくらくお正月料理のほかは改まってなにか用意するという風習は無くなったようです。しかしながらせめてお花でも飾ってお家にも新玉の喜びを味わわせてあげましょう。今回は洋風なお宅にも似合う少しだけのお花を用意いたします。(花包み・花切り・タオルなどをお持ちください) ※材料準備の都合により、12/10に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日時 12月22日(火) 13:30~15:00 参加費 会員 3,000円 ビジター 3,500円(花材費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名

百人一首競技かるた体験

講師 太田 富夫 三重県かるた協会会長

漫画やアニメ、映画でおなじみの「ちはやふる」のテーマともなっている競技かるたを皆様と体験してみる講座です。暁の上の格闘技ともいわれるほど激しい競技ですが、基本は下の句の書いてある札をとる早さを競うもので難しいことはありません。百人一首は平安末期に藤原定家によって選ばれた百人の歌人の秀歌集です。江戸時代に木版画の技術が進歩し、絵入りの歌かるたの形態で普及し、庶民が楽しめるようになりました。読み札には絵入りの歌が書かれ、取り札には下の句がかな書きで書かれています。主にお正月の遊びとして普及し、昭和初期までは全部の歌を暗記していた人も多く、上の数字文字を聞いただけで札をとったそうです。遊び方はいろいろですが、競技かるたもそのうちのひとつで、各地で競技会が開かれ、全国大会もあります。百人一首も最近ではあまり身近ではなくなっていますが、少しでもかるたをする機会もなくなってしまった昨今、小正月といわれる15日に懐かしい遊びを新しいやり方でやってみてはいかがでしょうか。

日時 1月15日(金) 13:30~15:30 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 12名限定

はじめての花結び~小さなおひな様~

講師 川本 美香子 日本結び文化学会会員

「花結び」は一本の紐を手で結び、花や蝶、紋などの形をつくる飾り結びです。「結ぶ」という行為には、長い歴史と伝統に培われた美しさが存在しています。古代人は、その結び目に神の御心が宿ると信じていました。仏教の伝来と共に花結びが伝えられると、花結びの文化は一気に花開きました。現在でも、信仰に関するもの、日本の伝統的なものなどには残っていますが、日常の暮らしからはほとんど消えてしまいました。そんな優美な結びを現代風にアレンジして楽しんでみましょう。花結びも早や6回目を迎え、今回は花結びでつくるおひな様に挑戦です。高さ5センチほどの小さなおひな様は玄関や棚など、ちょっとしたスペースにピッタリのサイズです。豪華絢爛なおひな様も素敵ですが、手づくりの心を込めて作ったおひな様もまた素敵ですよ。ぜひ今年の桃の節句に手づくり雛を飾ってみませんか？(筆記用具・ハサミ・ピンセット・まち針(二本)を必ずお持ちください) ※材料準備の都合により、1/10に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日時 1月20日(水) 13:30~15:30 参加費 会員 2,700円 ビジター 3,200円(材料費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 10名限定

お家でも作れるそば打ち

講師 西村 哲平 手打ち蕎麦「柿右衛門」店主

年越しにそばを食べるのはなぜでしょう。諸説ありますが、江戸時代から庶民の間に定着して現代に至っており、そのうち最も広く知られているのは、そばは細く長くのびることからの縁起説で、寿命を延ばし家運を伸ばしたいという願いが込められています。そばは切れやすいことから、一年の苦労や厄災、借金などを断ち切るという意味があるともいわれています。そんな縁起物のそばを自分で打って食べられたら、さぞご利益がありそうですね。そこで今回、伊勢市内にある手打ち蕎麦「柿右衛門」店主、西村哲平さんにそばにまつわる様々なお話と、そば打ちの実演をお願いしました。「柿右衛門」のそばは国産の玄そばを店内の石臼で毎朝挽いたそば粉で打つ、二八の手打ちそば。出汁は国産・地物の天然素材のみを使用しています。また地元の特産品である蓮台寺柿の葉や伊勢芋を練りこんだそばも考案されています。ぜひこの機会に国民食であるそばの見聞を広め、おいしいおそばを味わいませんか？(コロナウイルス感染防止のため、参加者の手打体験はありません。)

日時 1月22日(金) 11:00~13:30 参加費 会員 1,800円 ビジター 2,300円(材料費含む)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名限定

仏様の見分け方

講師 瀧川 和也 三重県総合博物館調査・資料情報課課長

仏様の像といってもあまりにもたくさんあって何がなんやらわからないという方が多いのではないのでしょうか。阿弥陀如来、釈迦如来、大日如来？如来様というからには全部一緒の方？でも薬師如来はなんか違うようだし、まあ拝んでおけば間違いはないからとりあえず手を合わせておきましょうとなります。でも実は簡単に見分けられるんです。その方法とは？瀧川先生がわかりやすく教えてください。知ってしまえば仏様に親しみがわいてより身近な存在になること請け合いです。

日時 1月25日(月) 13:30~15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

神宮撰社・末社・所管社の歴史 その5 ^{おつちみおやじんじや}大土御祖神社の歴史について

講師 音羽 悟 神宮司庁広報室広報課課長

皇大神宮撰社大土御祖神社は、楠部の神宮神田の近くに鎮座しています。古くは土地の俗称で「茶屋のモンサン」とも呼称されたようです。これは西方のフクロ茶屋と関連するものと思料され、現在でも「茶屋の森」と呼ばれることもある(「茶屋の森さん」の転訛か)といえます。平安時代の書物によれば、「大土御祖社」または「大土神社」と表記されています。今日でいう内宮所屬の撰末社は二十四座ありましたが、当社は比較的重い処遇で、七番目に位置付けられていました。何故でしょうか。本社も倭姫命が祝い定められたとされ、御祭神は国生神(一名大歳神)の御子である大国玉命・水佐々良比古命・水佐々良比売命の三座を祀ります。中世の頃は「所御社」と呼ばれていました。どういう意味でしょうか。なお、延暦23年(804)撰述の「皇太神宮儀式帳」によれば、当社の南に「御刀代田」が存在し、現在の神田に相当すると思われる。何故この地が神御田に定められたのか、考察を巡らせてみたいと思います。

日時 1月28日(木) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

藤堂藩の伊賀者について

講師 高尾 善希 三重大学国際忍者研究センター准教授

藤堂藩は伊勢国や伊賀国などを支配する32万石の大名家です。なかでも藤堂藩が伊賀国一国すべてを支配していることが注目されます。その伊賀国は、近江国甲賀郡とならび、優秀な忍者を輩出する地域として著名です。私が勤務する三重大学国際忍者研究センターでは、伊賀国の藤堂藩に仕える伊賀者の家史料を研究しています。この講義では、その成果の一端をご紹介します(コロナの感染状況によってはリモート講座を予定しております)

日時 1月29日(金) 13:30~15:00 参加費 会員 900円 ビジター 1,400円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

三重の古墳時代と伊勢神宮

講師 穂積 裕昌 三重県埋蔵文化財センター調査研究1課長

三重県における古墳時代の主要古墳とそこから出土した埴輪や副葬品などの主要遺物を紹介し、ヤマト王権との関係性がどのように結ばれていたのかを解説します。そして、現在までに知られている伊勢神宮に関する考古資料を解説してその所属年代や意義について述べるとともに、伊勢神宮を祭祀遺跡としてみた場合、大王家の祭祀場としての伊勢神宮とどのような関係性が辿れるのかについて、考古資料と文献資料を突き合せながら読み解いていきます。

日時 2月3日(水) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

木の建築とその実際

講師 前田 伸治 一級建築士・暮らし十職一級建築士事務所代表

昨今、公共建築も含めて木の建築が見直されてきました。身近な自然の恵みを用いて、私たちが必要なものを作り出すという、日本人としての自然観が、その背景になっているからかも知れません。木の建築は、我が国にとって長い年月をかけて培われてきました。その意味では、自然をどのように生かすべきかを模索してきた歴史でもあり、その中で蓄えられた知恵の賜ものでもあります。木を材木屋さんから調達して作ることが一般的でしたが、山に生えている木を直接見て選別し、それを伐り倒して木取りをし、建築材として整えて建築を作るとい、本来の木造建築に戻った作り方も増えてきました。そのためには木の素性を知り、私たち長い年月をかけて育った木の命を、建築に移し替えることが求められます。そのようにして作る建築の実際を紹介しようと思います。

日時 2月4日(木) 13:30~15:00 参加費 会員 1,150円 ビジター 1,650円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

漢字の旅「牛・羊・豚」~高先生に学ぶ漢字は面白い~

講師 高 潤生 書道篆刻家・現代印作作家

漢字はいつどのようにして生まれたのでしょうか。今、残っている一番古い漢字は甲骨文字。亀の甲羅や動物の骨に刻まれた漢字です。これは古い結果を記録するために使われました。漢字は仮名やローマ字と違って一字一字が意味や由来をもっているのです。私たちが日頃使っている漢字にどんな意味があるのか、違った角度から見直してみると漢字の面白さ、楽しさが見えてきます。令和3年のえとは丑(牛)。牛は勤労と力の象徴であり、また最高の美味でもあります。甲骨文字「牛・羊・豚」の文化史をたどりながら、肉についての中華料理の逸話をいくつか紹介しましょう。「牛・羊・豚」の甲骨文字の書き方も指導します。

日時 2月9日(火) 13:30~15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名



甲骨文字「牛・羊・豚」

宇治と山田の自治組織 その2

講師 山中 一孝 豆腐庵山中代表取締役

室町時代に自治都市として発展した山田の自治組織と山田三方という言葉、伊勢神宮関係の有力者の勢力を拝して山田三方会所という役所を設け山田の町政を担うようになりました。一方宇治は自治六郷という惣が作られ、伊治舎合年寄という組織が統括しました。その昔は宇治と山田はそれぞれに外宮内宮を要し、ことあるごとにめごとが絶えず、宇治山田合戦という戦まで引き起こし、挙句の果ては外宮が炎上するという騒ぎにまで発展しました。簡単に言えば参宮客の取り合いですが、これに国司の北畠が介入して泥沼状態となったのです。ことほどさように仲の悪かった宇治と山田、自治組織はどんな役割を果たしたのでしょうか？前回に引き続きじっくりとお話していただきます。

日時 2月10日(水) 18:30~20:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

冬の星見とプラネタリウム

講師 毛利 勝廣 名古屋科学館主任学芸員・学術博士

冬の星空には、冬の大三角やオリオン座、ふたご座などの有名な星座、そして2021年冬に最接近した火星も見えています。晴れたらレーザーで冬の星座をたどり、望遠鏡で月や火星をご覧いただきたいと思います。

本物に近い星空を再現したいと進化してきたプラネタリウムは、星空以外にも様々な機能を持つようになりました。世界や日本のプラネタリウムの歴史から、最新の技術までをお話します。(冬は星見に最適ですが、寒いので暖かい服装でお越しください)

日時 2月16日(火) 18:30~20:30 参加費 会員 1,150円 ビジター 1,650円(和菓子・お茶付き)
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名 ※お菓子は講義に合せて作っていただく五十鈴茶屋の特製菓子です

楽しい俳句

講師 石井 いさお 俳人協会三重県支部長・煌星俳句会主宰

わずか17文字にいろいろなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことを言えば貴族社会で楽しまれていた連歌から始まり、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを生み出したのが日本人であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らず5・7・5になっているといわれます。つまり誰もが俳句を作る下地を持っているのです。いまや世界の人々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えてください。

期日 12月23日(水)・1月27日(水)・2月24日(水) 時間 各回10:00~12:30 定員 20名
参加費 各回 会員 1,550円 ビジター 2,050円(資料代含む)